

## 感染症情報 4月17日～23日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1387例(堺市	50例)
②溶連菌感染症	486例(堺市	39例)
③手足口病	192例(堺市	9例)
④突発性発疹	115例(堺市	5例)
⑤おたふくかぜ	110例(堺市	6例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 523例(堺市 43例)

が報告された。

感染症報告数は前週より14.6%増の2,563件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、手足口病、突発性発疹、おたふくかぜの順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比9%増、堺市では前週比22%減であった。2位の溶連菌感染症は府下で前週比27%増、堺市で30%増であった。当科周囲でも増えている感がある。手足口病が府下で前週比50%増、堺市では前週11例→今回9例であった。おたふくかぜが府下では前週比11%減、堺市で前週9例→今回6例であった。

インフルエンザは府下では前週比13%減の523例が報告され、堺市では前週40例→今回43例と増加していた。報告定点あたりは前週2.0→今回1.7となっている。

マイコプラズマ肺炎の府下の報告数は前週6例→今回3例であった。

風疹の報告が1例、麻疹の報告が3例あった。